



独自の助成制度でまちを元気に 頑張る事業者を後押し

市長対談
ほっとタイム

本市ではさまざまな助成制度を設け、頑張る店主や中小企業の皆さんを後押ししています。まちなか商店リニューアル助成事業補助金や職場環境改善事業補助金などがその一例です。また、自宅の改修や修繕への助成も実施。好評を得ています。今回はこれらの助成制度を利用した皆さんを迎えて、お話を伺います。

注目を集める独自の助成制度 二つの狙いでまちを元気に

市長 今日は住まいやお店、工場などの助成制度を紹介しようと思いましたが、利用してくださった皆さんにお集まりいただきました。お年を召した方の自宅を住みやすくするための修繕や、お店を魅力的に、工場を快適にするための改修への支援策で、どれもまちを元気にするための本市独自の取り組みです。これらの助成制度は、対象となる人を支援するだけでなく、もう一つ大きな狙いがあります。改修などの工事は市内業者が請け負うという条件を設け、市内の会社に仕事が回るようにしたんですよ。まず平成23年に始めたのが、住まいの修繕を支援する「住環境改善助成」。この制度を使ってくださったのが、佐藤さんですね。

佐藤 はい、自宅の外壁を補修しました。おとしの台風で雨が吹き込むようになってしまってます。

市長 大がかりでしたね。風呂場やトイレなどの修繕を想定していたものですから、助成の上限はかかった費用の3割で20万円までと、決して大きな額ではないですが。

佐藤 だいぶ助かりましたよ。築25年もたつので、直したいと思ってはいましたが後回しにしていたんです。この助成が後押しになって、やっと決断できました。

市長 それは良かった。所得制限はあ



富岡 賢治市長

市内の商店や中小企業をさまざまな助成制度で応援し、まちを元気にしたいと思っている

りますが多くの人に使っていたら、毎年継続しているんですよ。

個人商店の改修支援で にぎわい創出の一助に

市長 住まいへの助成制度は利用者だけでなく、工事を請け負う業者の方からも大きな反響がありました。この手法を使ってさらにまちを元気にしようとして、平成25年に始めたのが「まちなか商店リニューアル助成」です。まちのにぎわい創出には個々のお店の魅力が欠かせません。でも内装を直したり設備を入れ替えたりするにはお金がかかる。そのための費用の2分の1、上限100万円までを助成する制度です。この助成を使ってくださったのが、片山さんと樋田さんのお二人。片山さんは、お父様とお弁当屋さんをなさっているそうですね。

片山 はい。創業36年になるものですが、外装や看板がだいぶ古びてしまってます。この助成で新しくさせてもらいました。狭かった待合スペースにも手を入れたんです。

市長 お客様の反応はいかがです



佐藤 省一さん

住環境改善助成を受け、自宅の傷んだ外壁を補修した。妻と妻の父の3人暮らし

片山 うちのファミリーや年配のお客が多いのですが、広くてきれいになったと喜んでいただいています。

市長 地元で愛されるお店なんですね。まさにこの制度の成功例ですよ。続いて、美容師の樋田さんは何に利用されましたか。

樋田 カットしたり染めたりするときにお客様が座る椅子を新調しました。

市長 そういう専用の椅子はお値段も張るものなんですか。

樋田 やはり良いものは高いですね。6年前に独立して念願の自分の店を構えたのですが、その時は限られた資金で、備品にまでこだわる余裕がなかったんです。買い替えに当たって、自己資金にこの助成を上乗せして、グレードの高い物を選ぶことができました。お客様からもすごく楽になったと言ってもらえます。

市長 それは良かった。飲食店もそうですが、おしゃれな美容室が多いことも活気あるまちの条件だと思うんですよ。お二人のようにこの制度をきっかけに、お店をさらに魅力的にして頑張っ



椅子を新調した美容室。座り心地が良くお客さんからも好評



片山 真理子さん

石原町にある持ち帰り専門の弁当店を、父親と営む。商店リニューアル助成は2回利用

てくださるのはうれしいですね。

例のな職場環境への助成で 「OpenWork」を実現

市長 ものづくりの若い経営者の皆さんと話をしてみましたら、小さな町工場では、十分な冷房設備がない中で働く社員がたくさんいるとおっしゃるんですよ。それでは熱中症予防じゃないかと驚きましたね。高崎は商都のイメージがありますが、一流の技術や技能を持つ職人や企業の多い、ものづくりのまちでもあります。その技術を若い人たちに引き継いでいってもらうには労働環境の整備が必要と、今年創設したのが「職場環境改善事業補助金」です。工場の空調設備などにかかった費用の2分の1、上限500万円までを支援します。この助成を使っていただいたのが、金属加工業の西山さんですね。

西山 はい、うちでは主に金型を作っています。機械が出す熱で夏場の工場内は過酷な環境です。これまで部分的な空調設備はありましたが、この助成を使って屋根と外壁に遮断熱塗装を施しました。



樋田 卓也さん

東京などの美容室で修行後、独立し北原町に店舗を構える。助成で客用の椅子を新調

佐藤 この助成制度ができてから、ま



西山 毅さん

金属加工・金型製作会社の4代目。従業員のために、職場環境の改善に積極的に取り組む

ちの業者が奮起して営業に回っているという話も聞きます。我々はもちろん、業者にもありがたい話だと思えますよ。

市長 制度を活用してもらって、地元企業に活気が生まれるのは良いことです。「商店リニューアル」は特に反響が大きくて、平成30年から2度目の助成も利用できるようにしたんですよ。

片山 実はそちらも使わせてもらって、フライヤーなどの調理器具を買い替えました。

樋田 私は、次は床を直したいですね。

市長 ぜひ利用してください。これからもまちを元気にする仕組みをどんどん考えていきますよ。良いアイデアがあったら教えてください。本日はありがとうございました。

対談の様子を動画で
ご覧いただけます



新型コロナウイルス感染症に注意しながら、参加者の皆さんの了解を得た上でマスクを外して撮影しています



暑さ対策で工場に遮断熱塗装を施した。保温効果もあり、室内は冬も快適に



待合スペースを拡張した弁当店。カウンターの位置をずらし、広げた店内に生まれ変わった